

5 保護者との円滑な連携のために

アドバイザー：青森第二養護学校 大船 なみ氏

園でご飯を食べなくなった乳児への対応と保護者への伝え方

【こんなことで悩んでいます】

- ・1歳児で体調を崩して2週間欠席した。その後登園してから、園でご飯を食べなくなった。昼食が嫌なのか、園が嫌なのか、障害があるのか……。拒否して泣きわめく。原因が分からず、もしも障害の可能性があるのであれば、保護者にどのように伝えたらいいのか……。

【○こんな対応をしています&◎こんな対応はどうでしょうか】

- 中学部重複学級の生徒だが、家でしかご飯を食べない子がいた。無理強いせず、食事時間が嫌にならないように「○分間座っていようね」と食事の時間を決めて取り組んできたところ、少しずつ食事に向かえるようになり、今は食べられるようになった。
- いろいろなアプローチをして、家の状態と合わせて、家で食べられるものを持ってきてもらうなど個別対応している。
- ◎体調を崩すまでは食べていて、2週間程休んでから食べなくなったとのことなので、もう少し様子を見ても良いのでは？
- ◎ご飯を食べないのは、母子分離不安かもしれない。家でどのような状況なのかは聞いてもよいのでは？

保護者に伝えたことが子どもと食い違いがある

【こんなことで悩んでいます】

- ・子どもが家で話したことと、先生が保護者に伝えたことが違うと保護者がよく思わない。園で起こったことが解決できるように検証し伝えるようにしているが……。

【○こんな対応をしています&◎こんな対応はどうでしょうか】

- ◎親と子の生きてきた歴史が背景にある。保護者とのラポールの形成を先にすることが大事。
- ◎通常学級は30人程度おり、一人一人の保護者と関係を築くことは難しい。その中で、「ラポール形成」はさらに難しいが、必要なことである。
- ラポール形成のために、年1回必ず三者面談をしている。本人が困難さを抱えていると親も悩んでいる。家の様子も教えてもらったり、学校の様子をはっきり伝えたりしている。何か

あれば、できる限り電話したり出向いたりしている。

◎子どもが家に帰るまでに、家庭へ連絡し、何があったかを先に伝えと良いのでは？

☆保護者支援は、一人で悩まず、園や学校として「チーム」で取り組んでほしい。職場の中で一緒に考えていける仲間を作ってほしい。

☆どのように子どもをみていくか、よりよくしていくためにアセスメントが大事だと思う。(指導や支援の参考になりそうな書籍の紹介)

☆今回は、「子どもの行動チェックリスト」を紹介したい。

子どものよりよい育ちを保護者と共通理解しながら取り組めるチェックリストで、教師用、保護者用、本人用の3種類がある。教師間で付けてみる、保護者と一緒に付けてみる、本人も含めて3者で付けてみる等、ケースに応じて活用ができる。ひきこもり、身体的訴え、社会性の問題、思考の問題、注意の問題、非行行動、攻撃行動など、8つの軸から構成されている。心理社会的な適応や不適切状態を評価して、複数の関係者が支援体制を整える有効なツールになっている。

「見える化」することで、子どもの変容につなげていけると思う。

子どもの実態を分析してから、目標を立て実践をして、評価・確認していくことができる。さらに1年ごとに行動の変容や心の育ちを情報交換して確認しながら、活用を継続できるアセスメントである。アセスメントに興味のある方は、本校に連絡ください。

☆保育園や幼稚園、学校の先生方に対する教育相談もあるので、本校をご活用ください。

大船先生より

